

Si-R260B V31.03 変更内容一覧

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V30.01～V31.00	ISDN/PPPoE/MODEMを利用する通信にて、同じ接続先に連続して接続要求が発行された場合に、接続できない場合がある。
2	V30.01～V31.00	show accesspointのstatus表示値がnot attachedの状態の時に、画面：操作／接続先閉塞/閉塞解除を表示すると、システムダウンする場合がある。
3	V30.01～V31.00	画面：LAN情報/VRRPアクション情報において、発信・着信抑止の相手ネットワークのセレクトボックス内の表示がすべて以外全てremote 0 nameの値となっている。
4	V30.01～V31.00	相手情報/ネットワーク情報にMPLS関連の項目がない
5	V30.01～V31.00	RIPで、remote unnumbered インタフェースでRIPv1を使用しRIPフィルタを設定したとき、RIPフィルタが設定どおり動作しない場合がある。
6	V30.01～V31.00	次の設定実施後、showコマンドで設定内容を表示させると0.0.0.0/マスク長と表示されるべきIPv4アドレスが、誤ってanyと表示される。 <pre> *lan 0 ip filter 0 pass 0.0.0.0/8 any any any any yes *lan 0 ip tos 0 any any 0.0.0.0/24 any any any ff </pre> のようにIPv4フィルタやTOS書き換えでIPv4送信元アドレスやIPv4送信先アドレスに0.0.0.0を指定し、かつ、マスク長に1から32を指定する定義を行う。
7	V30.01～V31.00	「ip6 filter<dst_addr>/<prefixlen>」に、prefixlenのみ指定された設定を表示すると、::/nと表示されるべき <dst_addr>/<prefixlen>がanyと表示される。
8	V30.01～V31.00	「ip6 trafficclass」設定操作にて、<src_addr>/<prefixlen>と<dst_addr>/<prefixlen>の、/<prefixlen>を省略しても設定できてしまう。
9	V30.01～V31.00	次の設定実施後、showコマンドで設定内容を表示させると0.0.0.0/マスク長と表示されるべきIPv4アドレスが、誤ってanyと表示される。 <pre> *acl 0 ip 0.0.0.0/4 any *acl 0 ip any 0.0.0.0/4 </pre> のようにacl ipでIPv4送信元アドレスやIPv4送信先アドレスに0.0.0.0を指定し、かつ、マスク長に1から32を指定する定義を行う。
10	V30.01～V31.00	次の設定実施後、showコマンドで設定内容を表示させると0.0.0.0/マスク長と表示されるべきIPv4アドレスが、誤ってanyと表示される。 <pre> ::remote ip exp 0 0.0.0.0/4 any any any any 1 *remote ip exp 0 any any 0.0.0.0/4 any any any 1 </pre> のようにremote ip expでIPv4送信元アドレスやIPv4送信先アドレスに0.0.0.0を指定し、かつ、マスク長に1から32を指定する定義を行う。 この定義をshow を表示させると、0.0.0.0/マスク長ではなく、anyと表示される。
11	V30.01～V31.00	remote ip clp <cr> で src_addr あるいは dst_addrパラメタ に 0.0.0.0/4等を指定し、show <config> remote ip clp <cr>すると、any と表示される。
12	V30.01～V31.00	GETNEXT要求にてat/ipNetToMediaグループのMIB取得時、適切なMIB値が取得できない場合がある。
13	V30.01～V31.00	本装置にSSH接続でログインし、無操作状態が続いて自動ログアウトする際にシステムダウンすることがある
14	V30.01～V31.00	RIP(IPv6)で加算metricによりmetricが16を超えると、metric16で送信され続ける。
15	V30.01～V31.00	templete運用中に、template予約したremote interfaceを通常remote interfaceで使用するように定義変更後、しばらくしてsysdownした。
16	V30.01～V31.00	動的定義反映によりOSPF利用インタフェースを停止した場合、メモリーークが発生する。
17	V30.01～V31.00	装置内のTCP通信を実行するデーモンが機能停止状態になる場合がある。これによって、停止したデーモンが遂行する装置内の処理(Web操作、telnet、ftpやDNS代理応答機能、他)が実行できなくなり、当該機能が装置起動まで使用できなくなる。ただし、この事象が発生しても、ルーティング処理など本装置を経由する通信は停止しない。

18	V30.01～V31.00	IPパケット長が不正なパケットに対してIPsec通信を行うとシステムダウンする可能性がある。
19	V30.01～V31.00	動的VPN接続でIKEネゴシエーションがgive upした場合、動的VPNセッションが切断されずに残り続けて復旧できない。
20	V31.00	動的VPN接続で動的VPN接続対象パケットをNATすることができない。
21	V30.01～V31.00	INDEXとしてゼロをとり得るMIB値の場合、GET-NEXT要求で適切なMIB値が取得できない場合がある。
22	V30.01～V31.00	IPフィルタにて、IP payloadが1 octetしかないICMPパケットの場合に、ICMPフィルタ条件があっても透過する場合がある。
23	V31.00	DHCPクライアントからアドレスを割り当てられている状態で、lan bindもしくはlan vlan bindを変更しcommitした場合に、IPアドレスが消えずに残る場合がある。
24	V30.01～V31.00	“vrrp action disable”を実行したとき、採取したMIBのvrrpOperStateの値が不当な値になっている。
25	V30.01～V31.00	show upnp portmapping コマンドで、UPnPでポートマッピングが作成されていても何も表示されない
26	V30.01～V31.00	telnet接続でSi-R装置へログインし、更にSi-R装置からtelnetコマンドで他装置にログインしているとき、コピー&ペーストやファイル送信等で大量のテキストデータを送信するとデータ抜けが発生することがある。
27	V30.01～V31.00	構成定義で upnp portmapping lease を設定していない状態で show candidate-config upnp portmapping lease を実行すると、設定できない値の 0d が表示される。この事象は表示の問題であり、設定操作は可能で、かつ操作上の制限等もない。
28	V30.01～V31.00	オーバーラップ・フラグメントのパケットが通過してしまう場合がある。
29	V30.01～V31.00	オーバーラップ・フラグメントのパケット転送時にシステムダウンすることがある。
30	V30.01～V31.00	コマンド名補完において、マニュアルに記載されていないコマンドが誤って表示される。
31	V30.01～V31.00	不正なIPパケット長のパケットをNAT処理するとシステムダウンすることがある。
32	V30.01～V31.00	装置起動時にLANコントローラのI/O構成情報が収集できない場合にelogを表示しない
33	V30.01～V31.00	DHCP6-PDクライアントに、IPv6プレフィックスを割り当てられているインタフェースのbindを変更してcommitすると、IPv6プレフィックスが削除されてしまう。
34	V30.01～V31.00	IPv6 プレフィックスを割り当てのための設定に誤りがあり、DHCPv6クライアントがlanインタフェースへのPDアドレスに失敗するとメモリ解放洩れが発生する。
35	V31.00	lan bind設定を変更してcommitする動作を連続して繰り返すとインタフェースに割当てたアドレスが削除されない場合がある。
36	V30.01～V31.00	エラーログ事象が発生するとシステムがダウンすることがある。
37	V30.01～V31.00	vrrpNotificationCntlのMIB値がtrapコマンド設定に対して適切ではない。
38	V30.01～V31.00	IPv6に関する設定において、“ip6 filter”コマンドが定義され、かつ“acl ip”が定義され“acl ip6”が定義されていない場合に、本来IPv6パケットが無視されるはずが“acl ip6 any any”で扱われる。
39	V30.01～V31.00	fragmentされたIP optionつきパケットを受信した場合に、正しく処理できない場合がある。
40	V31.00	Si-RルータがDHCPクライアントとして動作時、リース期間更新時(RENEW時)にルータアドレス等のオプションが取得できない。